

WORLD

凡事徹底

LEARNING BY DOING

実践によって気づき学び
得られるものがある



INDEX

- 2009年度 会員紹介 1P~2P
- 2008年度 各委員会 報告 3P~4P
- 2009年度 理事長所信、各委員長 基本方針 5P~7P

2009
January

IIZUKA
Junior Chamber NEWS vol.54

JCI 2009年度 会員紹介

 <p>理事長 野上 英敏 (株)のがみ</p>	 <p>直前理事長 赤間 秀樹 赤間登記測量事務所</p>	 <p>副理事長 多田 勉 (株)多田組</p>	 <p>副理事長 福永 隆一 (有)花のフクナガ</p>
 <p>副理事長 久保 頼貴 久保自動車(有)</p>	 <p>専務理事 下川 哲也 (有)ぱっぷDining</p>	 <p>常任理事 江藤 晃輔 (株)エトウ時計店</p>	 <p>常任理事補佐 森 浩昭 (株)玉置</p>
 <p>事務局長 坂平 順子 新進工業(有)</p>	 <p>事務局長補佐 深田 陵市 (有)南星観光</p>	 <p>監 事 西野 幸彦 西野土地家屋調査士事務所</p>	 <p>監 事 國米 征吾 (有)インテリアコクマイ</p>
 <p>監 事 小山 寛 (株)小山産業</p>	 <p>会員拡充特別室 室長 久保井 英樹 (株)クボイ</p>	 <p>会員拡充特別室 副室長 石原 由香 (有)Q&A</p>	 <p>会員拡充特別室 小玉 哲嗣 飯塚信用金庫(溝野支店)</p>
 <p>会員拡充特別室 田中 堅治 (株)福岡シービー</p>	 <p>会員拡充特別室 室井 秀行 (有)室井自動車工業</p>	 <p>コミットメント担当室 室長 犬丸 正嗣 犬丸損害保険事務所</p>	 <p>広報渉外委員会 委員長 西 竜太郎 (株)西 組</p>
 <p>広報渉外委員会 副委員長 藤木 秀憲 フジキ印刷(株)</p>	 <p>広報渉外委員会 大里 至 大里酒造(株)</p>	 <p>広報渉外委員会 岸田 貴靖 三協技建(株)</p>	 <p>広報渉外委員会 佐々木 英 佐々木英司法書士事務所</p>
 <p>組織力開発実践特別室 室長 山室 透 親和塗料</p>	 <p>組織力開発実践特別室 副室長 清水 幸浩 (株)瑞建工務店</p>	 <p>組織力開発実践特別室 今井 光 ハート歯科クリニックいまい</p>	 <p>組織力開発実践特別室 木村 幸道 潤野保育園</p>
 <p>組織力開発実践特別室 丸目 雅宏 (有)Q'zダイニング</p>	 <p>脚下照顧担当室 室長 谷口 正知 (株)チクホーシーリング</p>	 <p>総務例会委員会 委員長 野中 重司 光代自動車整備工場</p>	 <p>総務例会委員会 副委員長 堤 考史 (株)セレモニー 筑豊葬祭</p>
 <p>総務例会委員会 浅田 靖則 社会福祉法人 親孝会 太陽の郷</p>	 <p>総務例会委員会 有馬 武文 (有)有馬クレーン</p>	 <p>総務例会委員会 亀田 知左子 亀田屋クリーニング店</p>	 <p>総務例会委員会 下野 雅芳 (株)キューブス</p>



ブロック大会特別室



2006年に主管立候補をさせていただいてから、本当に今まで、多くの方々と出逢い、友情を深め、絆を結ぶ事が出来た事が、一番の喜びです。

公益性という、とても大きな難題がありました。嘉穂劇場での式典・ロールケーキ事業・66市町村リトル福岡・大学出前講座・大懇親会・そして登録・渉外全てのファンクションが見事に調和され、全てのメンバーのご協力で、大成功に終わる事が出来ました。各理事長様・役員の皆様・そして福岡ブロック会員大会in飯塚に参加された全ての方々に沢山のお褒めのお言葉を頂きました。

懇親会終了後は、参加されたメンバーだけでなく、ご家族の方々まで、椅子やテーブルを片付けていただきました。大会20日前に起こった、飯塚本町商店街大火災に際しても、多くのブロック役員の方々をはじめ、福岡ブロック全LOMの理事長様をはじめ、メンバーの皆さまに、お見舞いや、心温まる激励の数々を頂きました。

室長 江 藤 晃 輔

55周年特別室

私たち55周年特別室は、節目の年をきっかけに 委員会メンバー一人ひとりが真に豊かなふるさと実現の為に奮って行動する事を目標に活動いたしました。昨年の準備室の事業が10月半ばだった事もあり、遅れを取り戻すため、新春祝賀会の準備では毎日のように個別で打ち合わせをし新年会を成功させ、当初エクスカッションの一部を担当するはずであったブロック大会もメイン事業である長崎街道ロールケーキ223.8mを山室部会長と共に企画・運営し見事に成功いたしました。休む暇もなく創立記念式典準備・運営及び55周年記念誌の作成を行い8月からは55周年記念事業Love Birth Hikeの企画・準備をし並行して忘年会の準備を行いました。本当にJC活動に走り抜けた1年でしたが、いつも相談にのって頂いた西田副理事長とメンバーの結束がなくてはここまでの成功はなしえなかったと考えます。私自身も本当に多くの気づきや勉強をさせて頂いた思い出に残る1年でした。最後に全幅の信頼で私にすべてを任せて頂いた赤間理事長と信頼に応えようとする私を支え続けてくれたメンバーに心から感謝します。ありがとうございました。



室長 大 里 至

総務例会魁け委員会



今年度当委員会では、会員手帳の作成に始まり、12回の例会、5回の総会、準会員オリエンテーション、そして、第36回福岡ブロック会員大会の式典の運営と慌しくも忙しく一年間JC運動に取り組んできました。50回を数える委員会では、前回の例会の反省、向こう三ヶ月の例会や総会、そして、会員大会の式典の企画など盛りだくさんの議題で毎回深夜まで行いました。正直「よくやったなあ」というのが感想ですが、はじめは委員会メンバーが結束していたとは言いがたく、時には衝突することもありましたが委員会を重ねることに例会を重ねることに結束していき、ブロック会員大会を経て結束から絆へと変わっていったと確信します。さらには、その苦労を重ねることに自己を成長させ、喜びに変えてくれた一年間でした。

今年度、「総務と例会の委員長、式典部会の副部会長」と私にとって大変荷が重くハードなものでしたが、いろいろな方々の叱咤激励などさまざまな面でサポートをいただき何とかやり遂げることができました。ただし、「みんなに違いたい」をスローガンに例会を運営しましたが出席率の面では課題の残る結果となり私個人の力不足を感じました。

今年一年、例会に参加していただきました講師の先生方、LOMメンバー、飯塚JCの草創期を支えてこられた先輩方、その他多数のご協力いただきました皆様に感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に未熟な私を委員長として支えてくれた副委員長をはじめ委員会メンバーに、そして、担当室長に一所懸命に取り組んでいただき感謝しています。本当にありがとうございました。

委員長 玉 村 浩 一

広報魁け委員会

年当初、ONE・ONE運動ということで、会員拡大運動の要となるべき委員会の予定であったが、結果からすれば全くそれがふるわな委員会活動となってしまった。

本年度は5月のブロック会員大会に向けて、年明けからフル活動で動いていたように記憶している。

8月はJC祭りにおいて店舗出店という貴重な体験をさせていただいた。直方JCの方々及び飯塚JCサッカー部の面々には感謝の意を表したい。

10月には九州地区においてひとつづくり魁け委員会の褒賞申請を行った。褒賞申請の結果、見事ひとつづくり委員会是最優秀グランプリを獲得することができた。

当委員会の活動内容として唯一結果を出せた活動なのではないかと思われる。

一年間を通じ、委員長として、年当初の計画を計画通りに実現することがいかに難しいかということを感じられた。

そのようなふがない委員長に一年間付いてきてくれた委員会メンバー、また見守ってくれた室長に対しては今後足を向けて眠れないぐらいである。

本当にありがとうございましたm(__)m

委員長 佐々木 英



凡事徹底

LEARNING BY DOING

実践によって気づき学び
得られるものがある

(社)飯塚青年会議所
第56代 理事長

野上 英 敏



◇◆はじめに◇◆

私はこれまで(社)飯塚青年会議所に入会しなければ出会えなかった数多くの人との出会いを通じ、現在でも人として、JAYCEEとして数多くの気づきや学びを得ることができています。JCに入って本当によかったと思っています。「せめて自分にだけは負けたくない。」最初はその一心で先輩方の背中を見て歩んで参りました。

気が付けば出向という貴重な経験までさせていただき、「JCがなければ今の自分はない。」と思えるほどです。正直言って、仕事や時間などの工面は大変ですが、私の世界観は大きく変わりました。創立以来、諸先輩方が心血を注ぎ、56年目を迎える2009年、これからの私たちは通り一辺倒の答えではなく、「WHAT'S JC?」

というシンプルかつ奥の深い疑問に自らの答えを見出します。時代が移り変わり、対象や動機は異なっても、青年らしくはつらつと、時には行き過ぎた点で反省があったとしても、以下、全てにおいて、本年度は「JCに入会してよかった。」と思える自己修練と、皆様方に「あなたに出会えてよかった。」「将来あの人のようになりたい。」と言っていただけの公益性の高い地域奉仕をテーマに掲げ、実践して参ります。

◇◆公益社団法人制度改革元年◇◆

2008年、「結ぶ」をテーマに開催された、第36回福岡ブロック会員大会IN飯塚は、公益性を盛り込んだ大会でした。数え切れないほどのご厚情と友情とに支えられ、地域内外にご当地、飯塚の名声を高めることができた各ファンクションは、おかげさまで大成功に終わりました。大会主管LOMとしての主要な役割を終えた本年、私たちは感謝の念を胸に、新たに築き上げられた人的ネットワークを活かし、公益性を目的とした各事業を実施します。また、福岡ブロック会員大会や九州地区大会には全員登録と積極的な動員を行います。出向者には常に外部からの有益情報を還元していただけるよう、物心両面から支援体制で臨みます。法制度の改革に伴い、来たる5年後に備え、私たちは公益社団法人格取得を見据えて行動する必要があります。年初予算のシミュレーションや定款及び諸規定の見直しを実施して、地域社会での認知度と信用力を高めるための準備を行います。

◇◆「会員拡充」会員の拡大と充足、何事においても参画意識を持つ◇◆

物質的な豊かさから心の豊かさが求められている今日、私たちの使命は、次世代を担う責任ある立場の人間として、明るく豊かな社会を築き上げることです。時には青年らしく、無謀と言われようが大きな夢を創造することです。より大きな夢を実現するためには、一人でも多くの会員を募り、同じ志を共有していく必要があります。

私たちは、本年も会員拡大ONE・ONE運動を継承し、会員拡大に取り組みます。会員拡大は私たちの活動を広く知っていただくための広報活動でもあります。会員一人ひとりがJC大使として地域内外に夢と希望を発信し、いつ如何なる時も地域のリーダーとして、肯定的な言動を心がけます。

百聞は一見に如かずというように、JCには参加することで初めて気がつき得られるものがあります。貴重な時間の作り方、人との付き合い方、会議や組織の運営ノウハウなど、JCには地域に先駆けたリーダー育成の場として語り尽くせぬ魅力とチャンスが溢れています。自ら実践することにより気づき学び得られるもの(LEARNING BY DOING)は人生の宝物なのです。準会員と新入会員にJCの魅力を伝えるためにも、「皆でやり遂げた。」と思える達成感の共有、内外各事業への支援、出向の醍醐味や出向者への応援、シニアクラブをはじめとした先輩方の熱い思いに耳を傾ける機会等を通じて、会員個人が皆「JCに入会して本当によかった。」「JCはすごい。」「これからはいろんなことにチャレンジしてみよう。」と思っただけのよう、会員の拡大と充足、会員拡充ONE・ONE運動として力を注ぎます。

◇◆「脚下照顧」一隅を照らす人財になる◇◆

JC活動の基本は毎月の例会です。基本という意味では、例会アワーに公益性の概念を取り入れた一般公開例会を行うなど、例会の運営方法や議事進行のあり方そのものを再度根本から見直す必要があります。時間の都合上難しい部分もありますが、会員相互の情報共有を促進させるため、出向者報告や委員会の活動報告をはじめとした報告連絡事項の充実も欠かせません。JC歴の比較的浅い会員が増えた近年、JCイクリードやJC宣言文明読並びに綱領唱和など、締めるべきところはしっかりと気を引き締めた式典を厳正に行うことで、会員の資質向上にもつながります。例会終了後の居酒屋の青春は会員相互の更なる懇親を深めることに役立ちます。総会や例会の企画運営に携わることはとても大変なことです。しかし、いつの間にか定款及び運営規定が身についたり、時間厳守の大切さやメンバーの協力度など年間を通じて一番凝縮された達成感を味わうことでしょうか。残念ながら近年の例総会は出席率の低さや遅刻者の多い点が目立ちます。同じJCの会員が頑張っている訳ですから、社会人としての基本的なマナーが問われます。本年度の例会や総会は、基本的な事項を見つめ直すと同時に、欠席者や遅刻者に後悔させるくらいの意気込みで大いに盛り上げて参ります。

また、自らの足下を照らした時、私たちの地域は福岡県の県央、水資源豊かな交通の要所にあり、古くから稲作伝播による農業振興、長崎街道筋の整備により宿場町として栄え、石炭産業隆盛期は日本の近代化を支えたという誇らしい歴史があります。石炭六法失効や合併協議会では紆余曲折あれ、飯塚市、嘉麻市、桂川町

はそれぞれ特色あるまちづくりを行い、国道201号線飯塚庄内田川バイパス開通など、インフラ整備をはじめ、近代化遺産を中心とした観光振興など今後の展望や諸問題についても明るい兆しが見えています。石炭関連の近代化遺産をもって負のイメージで捉えられることもあります。大いに結構、地域のまちづくりを考え

る時、どうしても福岡市や北九州市のような大都市の経済産業一極集中に目移りしてしましますが、視野を大きく持てば、低調な地域経済も、脱経済化で割り切ってしまう心豊かさを取り戻せるのかもしれない。環境問題が声高に叫ばれる現在、あるがままの豊かな自然があり、アクセスに恵まれた環境に住んでいるという

ことは、地域一番の宝物なのではないでしょうか。本年、(社)飯塚青年会議所は、産学官連携や地域の人的ネットワークをフル活用し、「お役所が何とかしてくれるだろう」という甘えた行政依存体質から脱却し、自分たちで自らの地域に自らの手による自立した新しいまちづくりのグランドデザインを描きます。「いつかこのまちに住ん

でみたい。」と思える、流入人口がV字回復を見せる日を夢見て、心豊かで活

◇◆「知行合一」OTONANOSENAKAを実践する◇◆

創始の精神、「有一誠(いっせいあり)」という文字と言葉には、起業家精神にも似た、「私たちがやるのだ。」という固い決意と熱い信念とを感じます。人生意気に通ず、有一誠の精神は山笠に学ぶことができます。飯塚祇園山笠は復活以来、子ども山笠教室やわっしょい祭りをはじめ、近年では市民の祭りとしてすっかり定着しました。「山笠は俺たちががやらねば誰がやるんか。博多には絶対負けられんばい。」の気概と根性で、頑なに一つの誠を貫き通

します。しかし、どんなに口では立派なことを言っても、実践や行動が伴っていないければ何もしていないのと同じです。ひとづくりにおいては全てがOTONANOSENAKAです。一隅を照らす小さな灯火が、やがては国全体を照らすほどの明かりとなるために、会員個人が自己研鑽を通じて、地域のために何ができるのか自ら積極的に考え直向に行動します。青少年育成についても、「将来あの人のようになりたい。」と言われるように、自らの言動に責任を負います。私たちは常にJAYCEEとして地域社会に恥ずかしくない言動を心がけます。地域やひとにやさしくあるために、心の豊かさ、OMOIYARIの心をもって、故郷を愛する気持ちを育む人財育成を行います。

◇◆「凡事徹底」毎日少しずつできることから継続して実践する◇◆

ロバート議事法による会議の進行方法や進め方、ワークショップにおいて意志決定を効果的に行う方法などJCには会って議論をするために活用されている様々な会議手法があります。「小人は小善をもって易となし、為さざるなり。」といひます。「そんな単純で簡単なこと、わざわざ聞いたりやらなくてもいいじゃないか。」と言うその前に、一見平凡な事柄でも、日々継続して実践を積み重ねれば、素晴らしい効果が現れるものです。元来、JCには、自己を高め、リーダーとしての資質向上や会議の運営、事業計画立案のノウハウなど、会社経営や起業時に活用出来る様々な研修プログラムがあるのです。56年目のさらなる組織的飛躍を求められる今、公益性の名の下に実は埋もれつつある、人間力開発、指導力開発、経営開発など英知を磨く、各種研修プログラムにあらためてスポットライトを当て、当たり前前を当たり前前にできる人財育成と組織運営のノウハウを掘り起こして実践します。

◆◆基本方針◆◆

1. 「会員拡充」 会員の拡大と充足、何事においても参画意識を持つ
 - ・会員拡充特別室
 - ・コミットメント担当室 広報渉外委員会
1. 「脚下照顧」 一隅を照らす人財になる
 - ・脚下照顧担当室 総務例会委員会
 - まちづくり委員会
1. 「知行合一」 OTONANOSENAKAを実践する
 - ・知行合一担当室 山笠委員会
 - ひとづくり委員会
1. 「凡事徹底」 毎日少しずつできることから継続して実践する
 - ・組織力開発実践特別室
1. 公益社団法人制度改革元年
1. OMOIYARIの心
1. 会員拡充ONE・ONE運動
 - ・社団法人飯塚青年会議所正会員

会員拡充特別室

室長 久保井 英樹



2009年度を迎えるにあたり、(社)飯塚青年会議所では8名もの経験豊かな先輩会員を送り出します。これは比較的JC歴の浅い会員が大多数を占める現在、大きな痛手となることは否めません。しかし、ピンチはチャンス。明るい豊かな社会を築き上げるといふ使命のもと、日々活動していることは今も昔も変わりません。会員数の減少や会員の資質の低下等が懸念されていますが、指導力あるベテラン会員と次世代を担う新入会員とが混在する今だからこそ、会員拡大の絶好の機会であると考えます。

私自身、JCに入会以来本当に数多くの事を経験させていただいたし、気づき学ばせていただきました。これからのいろいろな体験や感動をすることでしょう。その感動をもっとたくさんのメンバーと分かち合うために、本年度も、引き続き会員拡大の手法として、一人がひとりを勧誘し入会していただくONE・ONE運動に取り組みます。

社会的にも不安定な情勢が続く今日、長引く不況で企業経営も厳しい中、JCなんてやってる場合じゃないとの声もよくききますが、JCならではのスケールメリットや何気ない会話から始まる心の通った信頼関係などお金に代えられないその魅力を伝え窓口としてLOM内外より拡大につながる有力な情報を集め、その情報を基に入会へと導けるよう率先して行動いたします。

これらのことは誰にでもできる平凡なことですがその平凡なことを

ひとづくり委員会

委員長 國武 裕仁



情報が氾濫する現代、私たちは、有益な情報を手軽に得られる反面、様々な情報を前に、何を信じたらよいのか、判らなくなりつつあります。

このままでは、目の前の情報だけを信じ、付け焼刃の知識だけで、ものごとを考え、判断してしまい、「自ら考える力」は、おのずと衰えていくのではないのでしょうか。

そこで、私たち、ひとづくり委員会では、様々な「ひと」や「志を同じうする者」と出会い、それぞれの地域の良さを共有しながら、ひとつのことに夢中になって考えたり行動することによって、多くのことに気づききっかけとなります。その「気づき」を活かし、「自ら考える力」の向上につながるような事業を行うことで、「自ら積極的に考え、行動できる」人材育成を行ってまいります。

また、これまで諸先輩方によって築かれた「伝統」や、いつまでも伝承され続ける「想い」。このような、すばらしい礎を再認識する機会を設け、改めて、地域の皆様や、諸先輩方に感謝し、明るい豊かな社会の実現に向けて、今まで以上に向上心を持ち、「将来あの人のようになりたい。」と言っ

総務例会委員会

委員長 野中 重司



「みんなの顔が見たい」

毎月の例会は、JC活動を支える基本とも言える大きな役割を担っています。各委員会や日常の生活で個々に会う事はあっても、メンバー全員で一堂に会する機会は例会や総会でしかありません。例会は、日頃会う事のない異業種のメンバーとの情報交換や意見交換、各委員会の活動内容の確認、更にはエリアやブロック等で行われている事業の紹介や報告などを知ることができる場です。

しかし、メンバーにはそれぞれ仕事や家庭といった様々な事情があり、例会に出席するという事は大変な修練であることも事実です。

本年度、私が目標とする例会は、欠席者や遅刻者を減らし、より多くのメンバーが参加する例会です。例会に参加することで、会員相互の和を広げることにより、例会の大切さを再確認できると確信します。

その為、当委員会では脚下照顧の言葉のもと、例会運営をより良くする為、今までの例会運営を基本におき、新しく取り入れるべき点は取り入れ、改善すべき点は改善し、厳粛で報告連絡事項の充実した式典を行います。更に、欠席者や遅刻者が後悔するようなアワーを企画し、「みんなの顔が見たい」と思えるような例会運営を目指します。

総会の運営・管理、総務諸業務に関しましては、スムーズな運営を心がけ厳正かつ確実に実施します。定款並びに諸規定の研究及び見直しを行

山笠委員会

委員長 小林 雄二



現在より39年前、(社)飯塚青年会議所の諸先輩方が多大な努力と情熱をもって飯塚祇園山笠を復活させ、このまちに活力を与えてきました。この伝統ある山笠にはJC三信条である「修練・奉仕・友情」と通じるものがあり、そしてそれは私たちが成長する中でも必要不可欠なものと考えます。

そこで当委員会は、飯塚山笠振興会に出向して四流れの代表の方々と共に、山はありませんが「私たちは五つ目の流れだ」と意識して山笠運営に携わります。

飯塚の市民祭である祇園山笠では飯塚市民だけではなく他の地域の方達が多数参加しております。この伝統ある祭りを、もっと多くの人たちに知っていただくために、飯塚市だけではなく嘉麻市・桂川町も含め広い範囲でPRしていき、さらに山笠に新たな風を吹き込む事が出来るように委員会メンバーでしっかりと意見をまとめ振興会で提言していきます。また地域の方と協力し合い友情を育む事で山笠の伝統を知り復活40周年に向けて新たな飯塚市民祭祇園山笠を目指し行動を起こす事がまちの活性化に繋がるものだと考えます。

また、今後の山笠に対しての関わりかたや一年間を通してのスケジュール等を再検証し、報告事業を行います。

そして、この山笠を通して今一度「礼節」を学び、社会人として当たり前の事をもう一度見直す事により山笠に参加してる子ども達の模範になるようにOTONANOSENAKAを実践します。

山笠委員会では何事も人まかせにはせず、創始の精神「有一誠(いっせいあり)」の言葉にある「私たちがやるのだ」という固い決意と熱い信念を持って一人ひとりが責任ある行動をしていく事でこの地域にとってさらに必要とされる(社)飯塚青年会議所へとなるものだと確信いたします。

忘年会では、本年度8名の先輩方が卒業されます。幾多の事業を通して様々な事を指導し時には厳しく、叱咤激励して頂いた先輩に感謝し今までのJC活動での功績が蘇るような、また現役メンバーには、この先輩方の功績を受け継ぎ更に追い抜く位の熱い想いを持って「一致団結」出来る

まちづくり委員会

委員長 伊藤 芳邦



私たち(社)飯塚青年会議所は昨年第36回福岡ブロック会員大会において、「結ぶ」をテーマにJC内外は基より、このまちに住む地域の方々との関係をより深いものにしよう取り組みました。そこであらためて気付かされたのが、人と人との繋がり、すなわち絆の大切さです。この絆こそが地域発展への第一歩ではないかと私は考えます。また、自らの足下を照らした時、私たちの地域は福岡県の県央、水資源豊かな交通の要所にあり、インフラ整備をはじめ、近代化

遺産を中心とした観光振興など今後の展望や諸問題についても明るい兆しが見えています。

そこで、本年度まちづくり委員会では、観光振興をテーマに同年代の若者や他団体との交流を通して「この地域の利便性はなんなのか」「いつかこのまちに住みたいと思えるまちづくりとは何なのか」など意見や疑問をまとめることで、新しいグランドデザインを描くことができると思います。それをもとに地域の方々と、このまちについて共に語り合い、「共に考え、共に体験する事業」を行います。そうすることにより、心豊かで活力ある魅力的なまちづくりができると確信します。

また当委員会は、三人行事の一つである新年会を企画立案し運営して

広報渉外委員会

委員長 西 竜太郎

組織力開発実践特別室

室長 山室 透



(社)飯塚青年会議所は、今年で創立56周年を迎えます。我々は創立以来、諸先輩方が培ってきた歴史と伝統を大切にしてきました。時代が変わり、対象や動機が異なったとしても、我々青年の視点で残すもの、進化させて行くものを考え、広く伝えていかなければなりません。

JCは参加することによって様々な経験を与えてくれる場です。積極的にいろいろな事に関わることで様々な人に出会う事ができ、自分自身の成長だけでなく関わった人にもいろいろな良い影響を与える



【WHAT'S JC】～JCの中にある可能性～
 I) CHALLENGE = 挑戦(55年間事業内容の検証)
 創立56周年という長い歴史を迎える中で、諸先輩方が構築されてこられたこの地域に対するまちづくり・ひとづくりの熱い想いに改めてスポットライトを当てることで、隠された多くの知恵を発見することができ、これからの事業展開を行っていく上で、私たちに多くの気付きをもたらした新たなステージへ向けての挑戦を促してくれると確信します。

II) CHANGE = 変化(人間力・指導力開発研修)
 組織の礎になっているのは、会員一人ひとりの個人力であると思います。組織としての地域に対する更なる担いを力として発揮するためには、個人力を向上させることが必要です。本年度は、個人力上昇のきっかけを作り出すべく、人間力と指導力の向上を目指すことに尽力を注ぎます。私たちが日々生かされていることは、多くの人やもの、様々な要因が関係し作用していることにより成り立っています。その事柄に対して常に感謝の気持ちを持ち、人として豊かな心を持つために人間力の向上を目指した研修を行います。また、会社・地域のリーダーとして自覚を持ち、資質の向上を行うことは先の見えないこの時代に必要不可欠なことだと思います。そのためには、幾多の事柄を考える上で様々な観点から物事を考え、先を見据えることのできるリーダーとして指導力向上を目指した研修を行います。この2点の変化から、組織に対して大きなより良い変化をもたらす、更なる飛躍ができると確信します。

III) CHANCE = 可能性(経営力向上における検証)
 青年会議所という組織には、スケールメリットを生かし多方面において人脈や知識を得ることのできる可能性があるといます。しかしながら、この可能性を自分自身の糧にするためには、各自が日々の委員会活動から事業までの様々な行動に責務を持ち、幅広く参画していき、更に一歩踏み出すこと

と考えます。
 当委員会ではLOM内に向けて(社)飯塚青年会議所の魅力並びに各委員会事業の進行状況等を広報誌として発行します。準会員と新入会員が各委員会の支援を広報誌の記者として行っていくなかで、JC活動をよく理解してもらい、さらには様々な人と関わる機会を創出し、広報誌を通して全会員に共通の話題を提供することにより、会員一人ひとりにJCの良さや楽しさを十分に知っていただけたらと考えます。さらに出向者の事業内容や活動報告を広報支援することで、出向の醍醐味及び経験を(社)飯塚青年会議所内に伝えて行きます。

またLOM外に向けて一般の方々にも見ていただけるような、魅力あるホームページの企画・管理、青年会議所活動を地域に広めるための広報誌の作成・発行、会員拡充ONE・ONE運動による積極的な広報活動を行います。

最後に各委員会に関わってきた準会員と新入会員が自ら事業を創り上げ、苦労や達成感を共有していくことで、JC活動の魅力や醍醐味を知り、(社)飯塚青年会議所の会員として成長することが出来ると確信します。

本年度広報渉外委員会では実践によって学び気づき得られるものがあるという事を広報という形で伝え、OMOIYARIのある情報伝達及

社団法人飯塚青年会議所

会員募集

青年会議所(JC)は“明るく豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内714余りの都市に4万2千人余りの会員を、全世界123カ国地域に20万人余りの会員を擁しています。

青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。

私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

(社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています！

私は、青年会議所について聞かれた時「青年会議所はまちづくりとひとづくりを行う団体です」と答えています。青年会議所はこのように考えています。家庭・学校・企業等、これらは全て「ひと」によって成長して行きます。そして、私達の生活している「まち」も「ひと」によって構成されています。青年会議所は40才までの団体であり、そのわずかな時間の中で「まちづくり」を行うことは大変難しいことです。しかし、いろんな事を経験し、体験することで「私」という「ひとづくり」を行い、「豊かな考え」のできる「ひと」に成長すれば、それが「豊かなまちづくり」につながるのです。青年会議所の活動は「もの」をつくる町づくりではなく、「ひと」をつくる町づくりです。青年会議所とは40才までにやり遂げる団体ではなく、入口なのです。

- 対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

広報懇話委員会
 委員長/佐々木英 副委員長/有馬武文
 委員/有田栄公・小山 寛・小玉哲嗣・長岡敦史・中川民志・西野幸彦・宗高元彦